

けやき会通信

尿に糖を出すくすり？！

薬剤師 新島亜梨沙

暑さの厳しい日が続いておりますが、檉会の皆様は、体調に変わりなくお過ごしでしょうか。けやき会通信で初めてお目にかかる新島です。

今回は2014年に初めて発売された比較的新しい分類の飲み薬である“SGLT2（エスジーエルティーツー）阻害薬”についてお話しします。

簡単に言ってしまえば尿に糖を排泄する働きを持った薬です。日本で発売されているSGLT2阻害薬は商品名ではスーグラ[®]、フォシーガ[®]、ルセフィ[®]、アプルウェイ[®]、デベルザ[®]、カナグル[®]、ジャディアンス[®]が挙げられます。（2021年5月現在）



糖尿病の患者さんは尿検査で尿糖が陽性になることが多いため、尿のなかに糖があるのは何となく悪いイメージを持っていませんか？実はその仕組みを利用して作られたのがこの薬です。糖尿病の患者さんは血液中に糖が多いと、尿に余分な糖が出ています。その糖をからだのなかに取り込んでしまうのが腎臓の働きです。SGLT2をブロック（阻害）することで、余分な糖をそのまま尿と一緒にからだの外に出すことができます。ちなみにこの薬を飲んでいる方の尿検査は血糖コントロールが良くても悪くても尿糖が陽性となります。尿糖だけを見て一喜一憂することは出来なくなります。

SGLT2阻害薬は血糖値を下げるだけでなく、尿量を増やして体重を減らしたり、心臓や腎臓を保護してくれたりする役割も担っています。良いこと尽くめの薬のように見えるかもしれませんが、どんな薬にもリスクがつきものです。例えば！尿量が増えるために、暑さが続くこの時期には特に脱水に気を付けなければなりません。SGLT2阻害薬を新しく始める方は積極的に水分（アルコール、ジュースやカフェインが入ったものはNGです！）を摂ることが大事です。（ただ、心不全などで水分制限をされている方は主治医の先生と相談が必要です。）それから、尿のなかに糖があると細菌や真菌（カビ）がやってきて、感染症を起こすことがあります。陰部がかゆくなったりする、排尿時に痛みがある場合、恥ずかしがらずに医師や薬剤師にご相談してくださいね。

SGLT2阻害薬は糖尿病だけでなく、心不全や慢性腎臓病にも効果があるとされる研究が行われており、これからも活躍の場が期待できる薬です。皆様が使っている薬のなかにこのSGLT2阻害薬があるかも知れません。今一度、確認していただき、正しい知識を身につけて、上手に薬を使っていきましょう。